

子宮内の善玉菌検査

産婦人科向けの臨床検査受託会社バリノス（東京・品川、桜庭喜行社長）は2018年度内にも子宮内の善玉菌を調べるサービスを広げる。善玉菌が極端に少ないと不妊の要因になる。事前に状態を知り抗生物質などを投与すれば、不妊治療に役立つ可能性がある。分析工程を自動化して取扱

バリノス

量を8倍に増やし提供病院数を2倍強の60に増やす。17年7月から検査サービスを始めた。価格は1回4万円前後。善玉菌の一種、ラクトバチルスが存在比を推定する。ラクトバチルスは雑菌の増殖を防ぐ。子宮でもこの菌の比率が低いと妊娠率が下がるとの報告がある。他

不妊治療に役立つ可能性

の細菌についても、菌の種類と存在比を推定して提示する。不妊治療を検討する際の材料として活用してもらう。



最新の分析装置で子宮内の細菌を分析して種類を特定する

独立系ベンチャーキャピタルのエンジェルブリッジ（東京・港）から1月に2億円を調達した。DNAの配列を調べて細菌の種類を特定する工程を自動化する。5日ほどでデータ解析できる。処理できる検体は8倍の週400件となる。日本では体外受精の件数が年40万件超と世界でもトップ級だが、採卵1回当たりの出産率は10%未満と世界平均（20%）に満たない。